

事業番号	09 04 27	事業改善シート (28年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	酪農生産性向上対策事業			担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト			課・局・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産		E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	3-3 活力と循環の信州経済の創出		実施期間	H26 ~		
	施策展開	3-(1) 経済構造の転換 ア 県内産業の競争力強化 ウ 農業の競争力強化					

### 1 事業の概要

目指す姿	<p>○持続的な酪農経営を展開し、新鮮・安全でおいしい長野県産牛乳を県民に提供するため、乳用牛の健康管理と生乳品質の向上及び乳用牛にとって快適性の高い飼育環境を目指す。</p> <p>○繁殖性の向上により生産性を高め、酪農経営基盤の強化を目指す。</p>	
現状 (予算編成時)	<p>○生乳生産現場では、衛生的で安全な生乳の生産を目的として、チェックシートによる生乳生産管理制度や酪農家ごとの乳質検査、乳質を基準とした評価額制度などの取り組みが行われているが、乳質評価プラス農家は酪農家の約70%程度である。</p> <p>○各々の酪農家で受精卵移植による和子牛生産等の取り組みが行われているが、乳用牛の健康管理や経営面で科学的根拠に基づいた検討がされておらず、必ずしも効率的な酪農経営に結びついていない。</p>	
県が関与する理由	県関与の必要性あり	<p>【左記の説明、根拠法令等】</p> <p>生産組織等と連携しながら高度な専門的知識を持った職員が検査や農家指導等を実施していく必要がある。</p> <p>・酪農および肉用牛生産の振興に関する法律 ・家畜改良増殖法</p>
県民との協働による実施	実施は困難	

成果目標・事業内容	① 成果目標 (H28)					
	<p>○乳質評価が標準以上の農家率(乳質評価プラス農家率) : H30までの目標を80%としているため、経年按分し、78%とする</p> <p>○生産性向上フォローアップ指導に取組む農家数 : 前年並み実績を維持するため、30戸/年とする</p> <p>○繁殖性向上に取り組む農場の平均分娩間隔の短縮 : 現状は430日であり、指標の380日に近づけるため、10日短縮させる</p>					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H28事業実績	H28		H29
				(当初)	(決算)	(当初)
	バルク乳検査	直接	バルク乳細菌検査572件・牛のウイルス性下痢粘膜炎検査597件	1,583	1,583	1,583
	牛群ドックの実施	直接	血液生化学検査643件	1,731	1,731	1,731
検討会・研修会の開催	直接	個別検討会36戸、スキルアップ研修会14回	288	115	288	
生産性向上フォローアップ	直接	飼育環境の快適性向上指導20戸・搾乳体系の改善指導49戸	436	373	436	
繁殖性の向上	直接	繁殖性低下要因調査84回	395	395	1,677	
		合計	4,433	4,197	5,715	

事業	区分(単位:千円)				成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29目標
		当初予算	4,433	4,433	5,715				目標	成果	達成状況	
		補正予算	0									
		合計(A)	4,433	4,433	5,715							
	コスト	一般財源	0	0	1,172	乳質評価標準以上農家率	74.0%	76.0%	78.0%	78%	達成	-
		県債	0	0		生産性向上フォローアップ取組農家	-	30戸	30戸	69戸	達成	-
		国庫支出金	923	923	1,033	平均分娩間隔の短縮	-	-	10日	4日	未達成	-
		その他	3,510	3,510	3,510	乳牛1頭当たり生乳量	-	8,848kg	-	8,753kg	-	8,941kg
	ト	決算額(B)	4,219	4,197								
概算人件費	職員数(人)	1.19	1.19	1.19								
	概算人件費(C)	9,848	9,418	9,418								
	概算事業費(B(A)+C)	14,067	13,615	15,133								

目標に対する成果の状況	<p>バルク乳検査、生産性向上フォローアップ等により、乳質評価が標準以上の農家率は目標を達成することができた。平均分娩間隔は、長期にわたり空胎であった牛が受胎し、平均分娩間隔に反映されたため、日数が延びる牛もいて目標達成には至らなかった。</p>
-------------	---

### 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<p><input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施</p> <p>繁殖診断機器の導入を計画的に図り、分娩間隔の短縮が図れるよう繁殖検診を充実させていく。</p>
--------------------	---